

2021年度サステナビリティ調達調査の概要

ソフトバンク（以下「当社」）は以下の手順でサプライチェーン全体のサステナビリティリスクを特定し、管理しています。

1. 主要サプライヤーに対して年次でサステナビリティ調達調査を実施し、調査結果を分析してサプライチェーンにおける潜在的なサステナビリティリスクを特定
2. 調査の結果、「ハイリスクサプライヤー」に該当したサプライヤーに対して、当社が重要と考える評価項目（人権等）に関する改善予定の有無等を確認するヒアリング、および現地監査を必要に応じて実施
3. ハイリスクサプライヤーに対して、要改善項目に関する改善提案を送付し、取り組みの改善を共に推進
4. 年次のサステナビリティ調達調査等を通じて要改善項目の改善状況をモニタリング

サステナビリティ調達調査の実施においては、当社が目指す「サプライヤーとの公正で良好な取引関係」を実現するために以下のKPIを設定し、ともにCSRに関わる課題に対処し、お客さまに安心して安全な製品やサービスを提供し、社会から信頼される企業活動を行うことを目指しています。

KPI	目標	目標年	2020年度実績	2021年度実績
サステナビリティ調達調査票の回収率※	90%以上	2020年度以降毎年	92%	93%
ハイリスクサプライヤーに対する改善活動の支援	100%実施	2021年度以降毎年	—	100%
サプライヤー視察およびCSR監査の実施	2社以上	2021年度以降毎年	—	5社

※ソフトバンク関連会社は調査対象外

サステナビリティ調達調査の実施概要

当社では、主要サプライヤーに対するサステナビリティ調達調査を毎年実施することおよび回収率90%以上を目標に設定しています。2020年度より、国連グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（GCNJ）にて2017年に作成されたセルフ・アセスメント質問表(SAQ)を採用し調査を実施しています。SAQは、グローバル・コンパクト10原則・ISO26000等の国際ガイドライン、特定業界のCSRアンケートをベースに9つの中核項目を抽出し、業界を問わずバイヤーとサプライヤー間で共有できるよう構成されています。

[グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン「CSR調達セルフ・アセスメント・ツール・セット」](#)

2021年度は、SAQと同時期にサステナビリティ調達活動の協業先であるKDDI株式会社と共通のフォーマットを利用した「高リスク管理アンケート」を各社サプライヤーへ実施しました。各社方針、ガイドライン（行動規範）以外の時勢に沿った人権、環境等、重要項目に関するアンケートとなります。

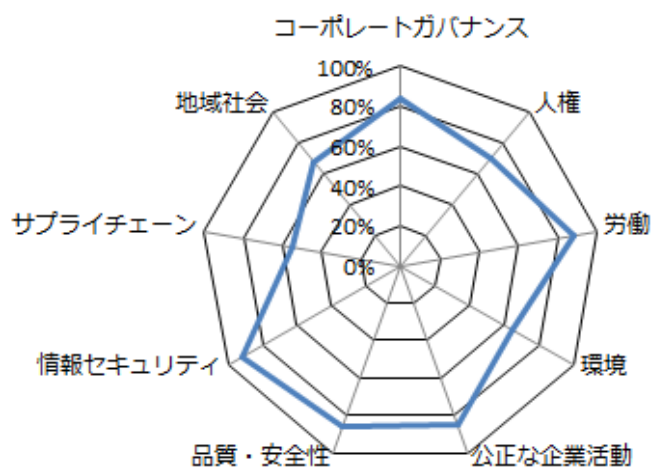
対象サプライヤー：2021年度は購入金額の上位約90%に含まれる主要サプライヤーを調査対象にしました。

※ソフトバンク関連会社は調査対象外

SAQ調査項目：(1) CSRにかかわるコーポレートガバナンス、(2) 人権、(3) 労働、(4) 環境、(5) 公正な企業活動、(6) 品質・安全性、(7) 情報セキュリティ、(8) サプライチェーン、(9) 地域社会との共生、114項目

調査結果

SAQ：9項目を合計した全体の平均得点率は77%でした。得点率の高い項目は「(3) 労働」、「(5) 公正な企業活動」、「(6) 品質・安全性」、「(7) 情報セキュリティ」である一方、得点率の低い項目は「(2) 人権」「(4) 環境」「(8) サプライチェーン」「(9) 地域社会との共生」でした。



項目	設問数	最大得点率 (%)	平均得点率 (%)
(1) CSRにかかわるコーポレートガバナンス	20	100%	83%
(2) 人権	9	100%	71%
(3) 労働	23	100%	88%
(4) 環境	15	100%	64%
(5) 公正な企業活動	20	100%	85%
(6) 品質・安全性	7	100%	86%
(7) 情報セキュリティ	9	100%	92%
(8) サプライチェーン	7	100%	55%
(9) 地域社会との共生	4	100%	68%
全体	114	100%	77%

サステナビリティリスクの特定と緩和

我々はサプライヤーの人権、労働、環境に対する行動が十分でなく、人権侵害の発生により我々の企業評判に影響を及ぼす、良好でない労働環境により製品・サービスの品質が低下する、環境や労働に関連する法令に違反する等、我々の事業活動に大きな負の影響を及ぼす可能性の高い状態を「サステナビリティハイリスク」と定義しています。ハイリスクなサプライヤーを特定するために、我々は人権、労働、環境を含む9項目の観点からサプライヤーを評価するサステナビリティ調達調査を行っており、9項目の平均スコアが65点以下かつ特に重大リスクが存在するものと捉える項目を満たしていないサプライヤーを「ハイリスク」なサプライヤーとして、共に取り組みの改善を推進しています。

リスクランク	評価点	2021年度	説明
Aランク	合計86点以上	40%	基本的に当社のサプライヤー倫理行動規範の要求レベルで行動ができている
Bランク	合計66～85点	29%	当社のサプライヤー倫理行動規範の要求レベルで行動できていない項目があるが、自主的改善が可能
Cランク	合計65点以下で重大リスク項目の該当なし	18%	当社のサプライヤー倫理行動規範の要求レベルで行動できていない項目について、改善計画に基づき状況モニタリングが必要
Dランク (ハイリスク)	合計65点以下で重大リスク項目が未達	13%	当社のサプライヤー倫理行動規範の要求レベルで行動できていない項目（人権、労働、環境等の一部項目）について、潜在的にリスク有と判断し是正措置計画の作成が必要

ハイリスクサプライヤーに対する改善活動の支援

サステナビリティ調達調査の結果、サステナビリティリスクが特定されたサプライヤーに対し、1) 分析結果を共有し、2) 追加ヒアリングを行うことで懸念事項を明確化し、3) 対応の方向性を協議することで改善支援に繋がっています。但し、対象となるサプライヤーは、サステナビリティ調達調査の結果に基づき毎年見直します。2021年度は、潜在的なリスクがあると判断したサプライヤー6社に対し是正措置計画の作成を依頼すると共に、今回のアセスメントを機に取り組みの改善を依頼しています。

リスクの種類	内容	2021年度 改善支援社数	改善指導率
指定国・地域の自社工場、取引先	指定国、地域に自社工場または取引先有無を確認できていない	1社	100%
外国人技能実習生制度	・外国人技能実習制度を採用しているが当社のサプライヤー倫理行動規範遵守の確認が取れていない ・外国人技能実習制度採用の有無を確認できていない	2社	
温室効果ガス（GHG）排出量	GHG排出量について、定量化した具体的な削減目標を設定していない	3社	

サプライヤー視察および監査の実施

当社は、従来もサプライヤーの工場等の現場視察を通して「品質・安全性の確保」や「労働安全衛生」等の確認を実施してきました。2021年度より「サプライヤー倫理行動規範」の遵守状況のモニタリング（CSR監査）に特化した監査を実施しており、監査項目の策定および5社の監査実施をしました。監査の結果、改善が必要なハイリスクと評価された場合、監査実施後、改善計画を策定し、取り組んでいただいています。

訪問調査	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
目標	—	—	—	2社以上（CSR監査）	10社以上（CSR監査）
実績	7社（視察）	9社（視察）	1社（視察）	5社（CSR監査）	—

責任ある鉱物調達

2020年度は一次サプライヤーに対して、製品に含まれる紛争鉱物の原産国調査を紛争鉱物調査テンプレート（Conflict Minerals Reporting Template：CMRT※）を用いて実施し、17社から回答を得ました。

2020年度調査結果	金	タンタル	スズ	タングステン
精錬所および精錬所総数	156 (内、対象国※※は2社)	38 (対象国なし)	87 (内、対象国※※は2社)	49 (対象国なし)

※CMRT（Conflict Minerals Reporting Template）：紛争鉱物に関する国際ガイドラインを制定しているRMI（Responsible Mining Initiative）により提供された、紛争鉱物報告のための調査フォーマット

※※対象国：紛争鉱物の対象国として指定されているコンゴ、および、アンゴラ、ザンビア、タンザニア、ウガンダ、南スーダン、ルワンダ、中央アフリカ共和国、コンゴ共和国、ブルンジの計10カ国を指します。